

“危険”を察知してブザーが教えてくれる

携帯型熱中症計 見守りっち



携帯型熱中症計 見守りっち 販売価格：2,310円（税込）

問い合わせ：株式会社デザインファクトリー

<http://www.hansoku-navi.com/>

原発の問題などでエネルギー不足が指摘され、節電が求められるこの夏。一方で、毎年続く酷暑で熱中症によって体調をくずす人も多い。そんなとき、見つけたアイテムが「携帯型熱中症計 見守りっち」。株式会社デザインファクトリー事業部長・山崎信之さんに話を聞いた。

「一昨年、日本気象協会から申し入れがあったのが開発のはじまりです。当時は熱中症という言葉が定着していなくて、日射病とか

と混同されて扱われていました。その一方で、熱中症で亡くなるお年寄りが増えて社会問題になってきたときでした。そういう事故を減らし、熱中症について啓発していくというのが日本気象協会の希望で、それを受けて当社がつくったのが、携帯型熱中症計です。それまで高価でプロ使用の大型のものしかなかったのですが、はじめて安価で携帯できる熱中症計が誕生したわけです。最初の年は、申し入れから時間がなく、日に日に暑くなるので、早く作らなければと、たいへんな思いをして開発したのが印象深いですね」

「見守りっち」は温度と湿度の関係をセンサーし、「ほぼ安全」「注意」「警戒」「嚴重警戒」「危険」の5段階の表示が出る。

「嚴重警戒」と「危険」のときにブザーがなる仕組みになっていきます。状況が変わらなければ10分ごとにブザーが鳴ります。お年寄りには、安全だと思ってしまうと、10分後に忘れてしまったたりするので、そのような機能にしているのです。ブザーも改良を重ね、最新のものは周波数を低くして、お年寄りにも聞きやすくしてあります」

発売後は大反響で生産が追いつかなかったという。2009

年は2万個、2010年は15万個、そして、今年2011年は累計で50万個の出荷となっている。

「たいへんな大きな反響をいただいています。『これを持つようになってから過こしやすくなった』という方が多いですね。ブザーがなったら、熱くない環境のところに移動してみる。場所を動かせなかったら、冷たい飲み物を飲んでみる。というような具合に熱中症にかからない生活になることで快適になっていくんだと思います」

色は青と紫の2色。「見守りっち」という名前がついたのは今年からだという。

「それまでの2年はただの『携帯型熱中症計』だったんです。色も白のみでした。さらに普及させるために今年の改良を機に『見守りっち』という名前を付けました。『見守る』ことが大事なんだというメッセージを込めているつもりです。お年寄り自ら何かすること expecting してはいけないと思うんです。ボタンを押さなければダメとかではなく、危ない状態になったらやさしく教えてあげます。見守ってあげる、というのがコンセプトですね。色は男性が青、女性が紫のイメージで、夫婦それぞれもってほしいように考えました」

お年寄りにまず届けたいというところで商品化されたが、そのほかの年代の人からも購入の希望は多いという。

「まず、スポーツをしている方ですね。熱中症の危険が高いですからぜひ携帯していただきたいと思えます。いまの形でもあらゆる方に使っていただけますが、今後は、赤ちゃんがいるご家庭やOLさんなど対象を絞った形で、デザインやアラーム音などを研究して開発していきたいですね」

携帯型だけでなく、置き型の「見守りっち」も販売されている。「こちらは企業などで購入いただいているケースが多いようです。オフィスに導入され、社員健康管理に使われています。もちろん、個人の家でも使用していただいています。熱中症がいちばん起こりやすいのはトイレと言われています。空調がよくなかったりして、トイレで倒れられる方が多い。ほかに、キッチン。寝ている時が危ないので寝室。そうしたところに置き型を置き、携帯型とうまく使い分けていただきたいですね」

節電が求められクーラーの設定も高め、それでいて酷暑が続くこの夏。こうしたアイテムを取り入れ、健康に過ごしたいものだ。